

## 知事広聴：平太さんと語ろう

## 発言要旨

日時：平成22年2月25日（木）13:00～15:30

会場：島田市民総合施設プラザおおるり ホール

## 1 出席者（男性5名、女性4名 計9名 敬称略）

富士山静岡空港周辺地域において様々な分野で活躍中の方

## 2 発言意見

No	項 目	関係部局
1	地域医療の支援窓口の設置 医学部の創設	厚生部 医療室 厚生部 政策監付
2	富士山静岡空港を利用した真冬の韓国 や中国に高品質な切り花の輸出	企画部 企画調整スタッフ 産業部 みかん園芸室
3	ワークライフバランスの実現 コミュニティーFMラジオの活用 上海事務所の機能強化	県民部 男女共同参画室 企画部 広報室 産業部 企業立地推進室
4	空港周辺の観光PR 空港と周辺地域のアクセス問題 全就航地の物産を集めた物産展の開催	観光局 観光振興室 企画部 交通政策室 産業部 マーケティング室
5	川根の地域振興	総務部 自治行政室 建設部 農地保全室
6	隣接地域振興事業の利用方法の改善 空港アクセス道路の整備 新幹線新駅設置への働きかけ	建設部 空港地域連携室 建設部 道路企画室 企画部 交通政策室
7	食育からの茶の振興	教育委員会 学校教育課 産業部 お茶室
8	食の都の施設等観光施設の整備 砂浜の復活 ビジネスマッチングの場の開催 大学の創設 御前崎港の活用による地域の発展	企画部 企画調整スタッフ 建設部 港湾整備室 産業部 経営支援室 県民部 大学室 建設部 港湾企画室
9	榛南地域の漁業の現状と今後	産業部 水産振興室
①	デザイン、草の根交流の重要性	企画部 企画調整スタッフ

## 3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 地域医療の支援窓口の設置、医学部の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近勤務医の不足から、診療科を休診する公立病院の数が全国的に急激に増加した。志太・榛原医療圏でも市立病院で勤務医の先生がやめられ、問題となった。この傾向が進むと、地域医療が崩壊する事態も考えられ、市民生活に大きな支障が生じてくるのではないかと考えている。</li> <li>・ そこで、島田市地域医療を支援する会は、市民の有志が集まり、地域医療を守る市民活動を進めていくことで、昨年4月に発足した。現在では賛同した市民29名が集まっている。</li> <li>・ 会として、何をすればよいか話し合い、活動の方向を次の3点に集約した。このことにより、医師や看護師の皆さんにいつまでも勤務してもらえないかと思う。</li> </ul> <p>① 自分たち自身が医療制度や医療現場の問題点を学習し、地元の市民病院を中心とした地域医療の支援を自分たちでできることから始める。</p> <p>② 市民の学習会の場を設け、病院の問題を関係者から直に話を聞き、救急医療の問題、病院関係者の勤務実態、患者との人間関係のあり方などについて理解を深める。</p> <p>③ 市民の皆さんに病院や診療所の正しい利用のあり方を働きかけ、病院関係者の勤務環境を少しでも改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域医療が壊れていくということは実に深刻な問題である。某病院の救急外来が閉鎖されたことで、島田市民病院の救急外来の先生方は、実際大変苛酷な勤務を強いられている。そこで、県に幾つかお願いをしたい。</li> </ul> <p>① コンビニ受診をやめよう、かかりつけ医を持とう、医師に感謝の気持ちをあらわそうの三つのスローガンをもとに、全県的なキャンペーンを展開して</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけの医者を持つというのは、本当に大切なことである。</li> <li>・ 多くの場合は、勤務医の実態がよくわからないまま、子供や自分自身の体の不調に対する、医者の対応に不満を持つ。</li> <li>・ しかし、医者の立場に立ち、地域の医療を地域の人たちと一緒に考えていく姿勢がすばらしい。ですから、この活動を私は支えたい。窓口を開設して欲しいとのことでしたので、そうしていきたい。</li> <li>・ 診療所と病院との連携が大切で、病院の勤務医の先生方の勤務は本当に厳しいので、そこに負担がかからないように、まず診療所で診てもらう。</li> <li>・ 診療所の医者が地域を愛するような、そんな文化を育てたい。その芽が今、発言者の方の活動の中で育っている、これを静岡県下全体の運動につなげていかなければいけない。</li> <li>・ 文部科学省は医学部の新しい設置を認めていない。しかし、本県で可能性が出てきた。医学部ならこの大学でもよいとは思っていない。380万人の県民が安心して医療を受けられるように、あらゆる可能性を考えながら医学部設置の方向で、今最も重要な課題として取り組んでいる。</li> <li>・ 近くにある病院の先生の出身大学を踏まえながら、信頼できる大学の医学部で、本県とゆかりのある大学から選定していく。大学設置には多額の費用がかかる。また、医者が育つには10年ぐらいかかるので、慎重に、しかし、確実に、医学部をつくる方向で意思を決めており、厚生部と一体になって取り組んでいるので安心して欲しい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>欲しい。県広報や県政番組などにより、強く県民の皆さんに働きかけて欲しい。</p> <p>② 自分たちと同じようなサポート団体相互の情報交換の場や学習機会を県として提供して欲しい。これにより、全県的な活動が盛り上がり、住民啓発活動が充実していくと思う。</p> <p>③ 病院サポートに携わる関係団体による緩やかなネットワーク化に援助をして欲しい。サポート団体、市町、関係医療機関などによる啓発推進母体の発足に向けた取り組みが図られることを期待している。</p> <p>④ サポート団体や啓発活動への支援をお願いしたい。自分たちの会も活動を行うために、活動費の捻出には大変苦労している。</p> <p>⑤ 県の窓口の開設と行政組織の強化をお願いしたい。県が行う地域医療政策の一環として、支援局単位で窓口を開設し、関係市町及びサポート団体を含めて、地域一体となった啓発活動を行うことができれば良いと期待している。このための行政組織の強化を図って欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最も大事なことは、病院が病気にならないことである。そのために行政として対応してもらい、市民としても健全な地域医療体制を支援すべく、努力をしていきたい。</li> <li>・ 県中部に県立大学の医学部を設けていただき、医師の養成に力を入れて欲しい。近くに新幹線の駅のない病院や、都市環境の未整備なところにある病院に医師が長く勤務してもらうためには、医師を地元で育成することが、安定した地域医療を確保するための重要な鍵となると思う。</li> </ul>	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>2 富士山静岡空港を利用した真冬の韓国や中国に高品質な切り花の輸出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業全般の課題として、高齢化や後継者不足が挙げられるが、花卉栽培の場合は、燃料費の高騰により、生産コストが上昇し、コストに見合う収益が見込めないというのが現状である。</li> <li>・ 昨年発表された農林水産省のデータでは、全世帯の8割が年平均2回しか切り花を買わないという調査結果が出ている。近年の不況と相まって消費者の花離れがますます進んでいるのが現状である。</li> <li>・ そこで、花卉生産者は幾つかの新しい取り組みを行っている。その一つは、花卉バケツ方式というプラスチックの容器に水を入れて、新鮮な状態で市場に出荷する方法。また、今年初めての試みとして、花屋など市場関係者を現地に招き生産の現状を知ってもらうということも始めた。</li> <li>・ 花卉園芸農家の立場から、静岡空港を利用して真冬の韓国や中国に高品質な切り花を輸出する構想を提案したい。</li> <li>・ 昨年の暮れ、サントリーが世界で初めて開発に成功した青いバラの販売のニュースが報道された。確か1本3,000円で即日完売であった。</li> <li>・ 私はトルコキキョウの栽培をしているが、現在では日本がトルコキキョウの品種改良の中心地となり、世界の品種のほとんどが日本で開発されている。</li> <li>・ 日本の優れた品種改良の技術を生かし、どこの国よりも早く高品質な切り花を静岡空港から中国や韓国の富裕層をターゲットに輸出したらどうか。他国にはない高品質な切り花を温暖な静岡の地を生かして、品種改良から輸出まで一貫してやる提案である。高品質であれば通年でも成功すると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンガポールは、今ではガーデン・シティといわれているが、もともと何もなかった。一人の指導者が、土づくりから進めた結果、誰もが親しめるすばらしい植物園ができた。</li> <li>・ この大きな植物園の一面は、有料で、そこでは世界のすべてのランが見られる。そしてそれを輸出している。その花を日本の立派なホテルが飾っている。</li> <li>・ 花は単に飾るものではなく、実はプロがしのぎを削っている世界である。島田はバラで負けないし、トルコキキョウでも負けないわけである。</li> <li>・ 花を売り込むには、花を上手に見せるデザイン、花自体と、花を見せる仕掛けが必要となる。</li> <li>・ 駅前や、目抜き通りに、ハンギングバスケット(園芸に使う吊りかご)があったり、花で飾られていると、必ず人の心を打つことになる。</li> <li>・ 花を上手に活用することで、小さな市場を開拓する。小さなものが大きなものに展開していくことになる。</li> <li>・ すぐに冬の韓国へトルコキキョウが輸出できるかは、ちょっと勉強させてもらうが、アイデアとしてすばらしい。これは可能な事業になると思う。</li> <li>・ 空港の周り全体が花の町になることが、その花を輸出できる条件になっていくだろう。一層の活躍を期待しながら、その側面的な援助をしていきたい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>3 ワークライフバランスの実現、コミュニティFMラジオの活用、上海事務所の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年、育児・介護休業法の改正などが行われ、法律や制度の改善が進んでいるが、実際には、経済が大きく変動する中、男女問わず就労上の悩みが多いのが現実である。</li> <li>・ 昨年、女性社員の活躍で、県の男女共同参画事業所として登録をさせてもらった。そしてワークライフバランスの視点から生き生き働く、生き生き学ぶための社内の取り組みをしている。</li> <li>・ 具体的には、男性社員から、朝子供を幼稚園に送るので、時差出勤したいとか、パートで働いているスタッフから、音楽療法の勉強をしたいとの自発的な発案などがある。</li> <li>・ 介護福祉士などの資格を持ちながら育児などで離職した人たちのワークライフバランスによる雇用の創出を積極的にしている。仕事する意識づけや、リスク管理の観点からも、ワークライフバランスはとても重要な経営戦略の一つである。</li> <li>・ 県でもワークライフバランスが企業経営にとって、また働く人たちにとっても大変有益であることを具体的に分かりやすく啓発し、マネジメントを今以上に強化して欲しい。新しい静岡スタイルの働き方が発信されると思う。</li> <li>・ 島田市にコミュニティFMが開局したことを機会に、「おうち時間」という地域福祉番組を企画・製作・提供している。その中で、行政と民間企業が共同して地域メディアを複合的に活用することで、地域と人をつなぎ、地域の安心・安全・活力を支える基盤を構築する可能性があるかと確信した。</li> <li>・ 中山間地域の多い島田では、防災の観点からも地域情報化がとても重要だと感じている。新年度からはラジオの持つ特性である双方向性を生かし、地域の生活情報誌とラジオを連動させ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークライフバランスを自分の会社で実現するために、介護士の方を優先的に採用し、実際にそれに役立てようとしている。こういう人がリーダーでないと、なかなかワークライフバランス、男女共同参画社会といっても実現できない。</li> <li>・ あるとき、県のベテラン女性職員に、「企業の中には保育所を設けているところもあるが、県庁内は保育所がない。企業につくれと言っておきながら、言っていることとやっていることが合っていない。」と言われた。</li> <li>・ 本当に問題を抱えているのは、どちらかといえば男性より女性である。だから女性の方々の意見をしっかり聞いて、その方々を立てないといけない。</li> <li>・ 平成元年から大学の進学率は男性も女性も変わらない。今 40 歳の人たちからは、男女で学歴は変わらない。あと 20 年経つと 60 歳以下の人が全部そうなる。意思決定権を持つ世代の学歴が男女で変わらなくなり、20 年後には、必ず男女共同参画になる。</li> <li>・ あなたのような方が、これからもっともっと出てくるので頑張ってもらいたい。</li> <li>・ ラジオを単に地域のコミュニティづくりのために、活用するのではなく、いざというときに役立てる。コミュニティラジオが一番地域のことを分かっている。そのように双方向性を持つものが、今 9 局あるのでつなげて欲しいとのことだった。NHKFM と 9 局のコミュニティFMがどうすれば連携できるか、できることを教えてもらえれば、その仲介をぜひしてみたい。</li> <li>・ 空港をビジネスチャンスと捉えているとのことだが、上海万博にある日本産業館の館長はふじのくに親善大使である。県との友好関係、交流関係を深めるであろう、ありとあらゆる情報</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>たクロスメディアにも積極的に取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県内には、FM島田が開局し9局のコミュニティーFM局が東西に網羅した。県の広報としても、コミュニティー放送を高齢者、子育てを行っている方、目が不自由な方など、情報弱者の方を対象に、積極的に利用することが十分可能である。またNHK FMとコミュニティーFMの連動を後押しすることも必要である。</li> <li>・ 空港は社会経済の基礎となり、今とても大きなビジネスチャンスが見え隠れしている。今年、中国 2010 年上海国際博覧会が開催され、静岡県も日本産業館催事ステージに出展すると聞いている。</li> <li>・ 上海は1,900万人の人口を有する巨大な都市であり、地方中小企業にとっても、無限の可能性を感じさせ、自分たちも何らかの形でぜひ参画してみたい。</li> <li>・ 中国市場の経済、消費活動はどのようになっているか、またどのような日本商品が愛好され消費されているか、日本企業の進出状況はどうか、大いに関心がある。県でまず中国市場の活用に向けた情報やりサーチなどを行うため、県上海事務所の機能強化を推し進めて欲しい。</li> <li>・ 中小企業対策の一つとして、情報提供やりサーチの後押しを進めてもらえれば、若年層が力を発揮できる新たな雇用づくりが、地方都市も十分可能になる。</li> <li>・ 富士山静岡空港から飛び立つ飛行機が、「ふじのくに」から飛び立つ若い力を後押しして欲しい。</li> </ul>	<p>は、県の上海事務所と、日本産業館の館長に入り、県に伝わることとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本当のネットワークとは、人と人とのネットワーク、顔の見えるネットワークでなければならない。</li> <li>・ ここにいるこの人が誰か。その人を通してその組織を見る。組織は人が動きやすいようにチームワークを組んでいるので、個人的な関係を築き人を介して、訪ねばうまくいく。</li> <li>・ そうして実際にハートに入っていくネットワークをつくると、ビジネスチャンスも必ず生まれる。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>4 空港周辺の観光PR、空港と周辺地域のアクセス問題、全就航地の物産を集めた物産展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金谷茶娘大使の仕事は、金谷茶や茶祭り、金谷地域のPRが主な仕事であるが、富士山静岡空港の開港に伴い、空港周辺地域の観光PRの仕事もしている。昨年は就航先である札幌、鹿児島へお茶をお届けしながら、観光PRに行ってきた。</li> <li>・ 静岡と言えば富士山とお茶であり、これはどこに行っても聞かれる言葉である。しかし、知人にお茶を送ってもらい飲んでいるとは聞くが、実際に静岡に行ってお茶を買っているという言葉はなかなか聞かない。</li> <li>・ 特に県内中部地方は、観光地として考えられていないと感じる。しかし、実際はそうではないと思う。</li> <li>・ 普段から当たり前のように見ている牧之原公園から望む富士山、これだけでも十分にアピールできる。SLが走る大井川鉄道、千頭と井川をつなぐアプト式の列車、これも十分に全国にアピールできる。自分たちでは感じる事ができない魅力が実はたくさんある。</li> <li>・ このことは観光PRがうまくできていないのが原因である。観光名所となり得るのに、うまくアピールできない場所は、県内に島田市以外も数多くあるのではないか。自分たちはアピールする力が弱いと言われる。観光地としてのPR力がつくように県が積極的に学習会などを開催してくれれば、県内外ともに静岡は観光地であるという意識が強くなり、たくさんの方に静岡空港を利用してもらえるのではないか。</li> <li>・ 富士山静岡空港は、素晴らしい観光への窓口となることを期待しているが、外から静岡空港に降り立つには不便さも感じる。問題は空港からのアクセスである。一日に数本しかないバスでは、思い通り行きたい場所へ行けない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶娘大使として素晴らしいPRができています。</li> <li>・ この地域全体がどういう宝物を持っているか、観光資源を持っているかを知るには外を見ないとわからない。</li> <li>・ 例えば、札幌と島田や牧之原では、風景が違うし、食べるものも気候も違うから、自分たちの地域について、あらためて発見することがある。相手を見に行き、結局自己を知ることがある。観光資源を見出すには外に出るのが一番よい。</li> <li>・ 鹿児島に行くと、鹿児島でもお茶を作り、売っている。本県のお茶とどう違うのか。薩摩富士という富士山があるが本物との違いはどうか。地元のものとは他地域のものとの違い、メリットを考えることになる。</li> <li>・ 先ほど志戸呂焼に淹れたお茶をいただいたが、鹿児島だと薩摩焼がある。地元のものを利用し、差別化、個性を出すことが必要である。</li> <li>・ 物産展を開催したらどうかとのことだが、どこで開催するかとなると、向こうの人が来やすく、こちらも行きやすいところがよい。空港近辺がよいことになる。しかし、空港は狭いので、別の場所を考えることとなる。</li> <li>・ どこが一番よいかは、そこから、大井川のSLに乗り、寸又峡まで行ける。SLに乗ることそれ自体が楽しい。そういう全体を広くデザインすることが大事である。</li> <li>・ それには、デザインを学問にしている静岡文化芸術大学の学生を使えばよい。学生の教育効果にもなるし、その成果を地域の代表や専門家が審査すれば、地域の人たちにより決定されたものとなる。静岡文化芸術大学の学生を活用して欲しい。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就航先の方々に来てもらうには、まずそういった問題の解決が不可欠である。実はたくさんある観光地、ここでしか見ることのできない景色、自分が行きたい場所を気兼ねなく選んでいける環境、この環境整備こそが観光地としての課題である。</li> <li>・ 富士山静岡空港就航先のすべての場所の物産を一堂に集めた物産展を県に協力していただき開催してもらいたい。空港ができたからこそその実現できるイベントであり、県が動いてくれないければ絶対に実現できないイベントである。</li> <li>・ これを静岡空港を利用して行うことで、各地から静岡に人が集まり、人が集まれば空港周辺のよさもわかってもらえる。</li> <li>・ 島田市は今年3つの大きな祭りが同時に開催される6年に1度の機会、絶好のタイミングである。島田市が観光誘致に尽力するのはもちろん、県からも空港から10分から15分で観光できる場所がたくさんあるということ、全国に発信する協力をして欲しい。</li> <li>・ 富士山とお茶だけではない静岡を、ぜひ全国に発信して欲しい。</li> <li>・ 自分は今後も金谷茶娘大使として、島田市、そして静岡の観光PRに尽力していきたい。</li> </ul>	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>5 川根の地域支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島田市の中でも中山間地である川根地域で、商工業者の方の経営支援をしている。</li> <li>・ 川根が住み続けたいまちであって欲しい。例え将来、子供たちが川根を離れても、出身地を聞かれたときには「島田市の川根出身です」と胸を張って言えるまちであって欲しい。川根をおしゃれなまちにしたい。これらを目標に川根のイメージをもっと引き出せるように活動をしている。</li> <li>・ 具体的には、10年ぶりの夜店市復活、家山川堤防の土手一面へのシバザクラの植栽による新しい桜の名所づくり、また低迷している緑茶に地場のブルーベリーなどをブレンドしたフレーバーティーの商品開発に携わっている。</li> <li>・ また、川根地域では、青年団が大変元気に活動をしており、昨年も歌舞伎公演の開催など、さまざまな取り組みで地域に元気と活力を与えてくれている。そんな彼らと一緒に将来のまちづくりを話し合っている。</li> <li>・ 20代から40代の女性は、さまざまな雑誌、インターネット、メディアを通じて流行に非常に敏感で、都市部を中心とした女性には、農業やエコ、安心・安全な食といった単語がキーワードになっていると感じる。農業を例にとると、これまでは汚い、大変、ダサイといったイメージを持たれがちだったが、最近ではおしゃれな作業服などが発売されたことにより、農業もトレンドにシフトしている。</li> <li>・ こうしたことは、中山間地である私たちの町の発信力や活動内容も同じではないかと思う。</li> <li>・ よその真似ではなく、今の川根の良さを変えてしまうのではなく、田舎らしいどこにもない良さ、これに一步進んだおしゃれ感、洗練された感じをつけていく、それがポイントなのではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おしゃれと言われたが、田舎らしさの良さに対するイメージが変わっている。</li> <li>・ これまではビルを作ることが進歩、新しいと思われていたが、今大都会では、公園をつくりたい、屋上緑化や、側面緑化をしたいと言っている。水、緑、土へ回帰しているのである。それが実現されているのが、ここである。</li> <li>・ 昔我々がヨーロッパに旅行するときは、パリ、ローマ、ロンドンに行っていた。しかし、今ではその国の人には、パリの郊外のプロバンス地域、イタリアのトスカーナ地域、イギリスなら豊かな田園地帯が広がったコッツウォルズという中世のようところが、一番おしゃれしている、ゆったりとした時間があり、都会の喧騒から逃れてよかったと感じている。</li> <li>・ カントリーサイドに戻ることが本当の幸せだ。町に来て、それなりの貯金をして、今度は田舎に帰るとというのが本当のおしゃれな豊かな生き方だということである。未来はここにあるということで、ちょっとおしゃれに飾っていき、心を引きつけることが今求められている。自信を持って欲しい。</li> <li>・ 小さなものから大きなものまで動かす力はデザイン力である。</li> <li>・ 役に立ち、かつ心に訴えるという芸術は、単に飾るときれいなものだけではない。美と用、用と美が一体のもの、これがデザインである。そういうものが今求められている。おしゃれにするには、それが求められている。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野守の池は、透き通った水面を復活させ、池の周りにゆっくり散策できる歩道を整備する。時にはきれいなイルミネーションを飾る。悲恋の伝説を逆手にとったストーリーを構築し、新たなデートスポットとする。</li> <li>・ 笹間地域は山村都市交流センターを核とし、芸術家の皆さんの協力によりアートレジデンスの里として、陶芸や絵画など芸術に触れることのできる場にする。</li> <li>・ 農業については、農業体験やテクニカルツーリズムを通じて交流を広げ、新たな雇用創出の場にする。</li> <li>・ 大切に守っていくべきものに新しい魅力を加えて発信していくことで、これからのまちづくりができる。</li> <li>・ 過疎地域という言葉は、とにかく暗いイメージがあるが、自分たちは元気いっぱいである。さまざまな分野で、さまざまな人たちが地域づくりに熱心に取り組んでいる。そこに住む自分たちは、自分のできることに精一杯取り組んでいくので、県としても中山間地域の振興について支援をお願いしたい。</li> </ul>	
<p>6 隣接地域振興事業の利用方法の改善、空港アクセス道路の整備、新幹線新駅設置への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空港開港の話が出た当初はあちこちで大きな反対運動があったが、県という話、空港の必要性等を聞き、また県の職員の誠意と町の職員の誠意を感じるなど、いろいろな条件が重なって、平成8年に補償協定を結び、設置許可が下りた。</li> <li>・ 補償協定のうち、農業特別対策事業として代替地の提供等、いろいろな事業をしてもらい終わった。</li> <li>・ しかし、空港周辺の影響を受ける地域が活用する隣接地域振興事業の進捗度は、対象市町によってバラツキがある。</li> <li>・ これは市町が行う事業に対し、県が1/3を補助するものであり、旧榛原町には27億円の割当があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県から20億円分の援助を受けるために、総額60億円の事業を行い、40億円分市で負担しなければならないのは、不便である。そんな足かせをとれないか。一度考える。</li> <li>・ 使い勝手の悪いのは、それなりの理由があると思うが、その理由と今必要だという新しい現実に合わせて理由と見比べ、お金を生かす方向で考えていく。</li> <li>・ 空港を造るために、ものすごく大きなお金を投じた。何としても空港を活かさねばならない。</li> <li>・ 新幹線新駅設置は新幹線と競合するから要らないという意見が多かったと思うが、空港とのアクセスはJRの駅と結んでおり、JRと空港が関係し</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前は国が1/3補助する事業と絡め、町の負担が1/3になるようにして事業を実施していたが、今は国の補助事業がなくなってしまったため、2/3を市町で負担しなければならない。</li> <li>・ さらに、この事業は旧榛原町では限られた一部の地域のみが対象となるため、費用対効果の面からの問題もあり事業が進まなくなった。</li> <li>・ 現在27億円中20億円が未実施で、利用可能期間が、平成22年までと決まっている。</li> <li>・ 住民としては、当初約束されたことが実施されていないことになり、地域として危機感を持っている。</li> <li>・ 知事が話されるガーデン・シティ構想に組み込むことも可能と思うので、事業を行う良い方法を考えて欲しい。</li> <li>・ 地域の産物を空港を利用する観光客等に売るための地産地消の施設を、空港内等の良い場所に設置して欲しい。</li> <li>・ 空港へのアクセス道路の中で、以前吉田インタールートが計画されていたが、ルートを変更するという話が出て以降立ち消えになっているので、ルートを変更し完成させて欲しい。</li> <li>・ 新幹線新駅ができるように、JRに働きかけて欲しい。</li> </ul>	<p>ていることが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前原国交大臣は、羽田の真下に新幹線を引き込もうとしているが、富士山静岡空港は初めから真下に引き込まれている。</li> <li>・ あと大事なことは新幹線を使う利用者がいるということである。利用する人がいれば、その人たちの交通の便を考えねばならない。それが公的な運送に携わっている企業の社会的な義務である。</li> <li>・ 空港を利用する人が多くなれば、双方とも得する関係になるので、そのためにも空港を育てることが大事である。</li> <li>・ 空港を育てることは、地域をよくするためでもある。 この地域にある色々な農産物を販売するだけでなく、料理し、地元で食べることができればもっといい。空港の近くのレストラン、お茶の郷、グリーンピア牧之原、そういうことにお金を使うのが有効である。</li> </ul>
<p>7 食育からの茶の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧之原市JRハイナン青壮年部は全国茶品評会で日本一になった。部員は常においしい茶づくりに励んでいる。</li> <li>・ しかし近年、茶業を取り巻く現状は大変厳しく、高級茶の販売低迷、荒茶の相場の下落、資材高騰、後継者問題等、たくさんの課題を抱えている。</li> <li>・ 県には今以上に静岡茶のPRをお願いしたい。</li> <li>・ 静岡イコール茶をもっと定着させるため、県内すべての小中学校にいつでもお茶を飲めるような設備の設置をお願いしたい。それにより、風邪やインフルエンザにかかる児童、生徒が減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国茶品評会日本一であり、静岡県の誇りである。</li> <li>・ すばらしいものを子どもたちに味あわせたい。いつでも、どこでもお茶が飲める施設を小中学校に設けたいとの考えはもっともである。少なくとも給食に出ないのは、お茶の静岡県として、ぐあいが悪いので、そこから始めることができると思う。</li> <li>・ 日本のお茶の文化は闘茶から発展した。そこから子供たちの味覚を鍛えるのは、日本の茶の文化を全国レベルで支えていくためにも、すばらしい提案である。</li> <li>・ 日本一の茶業者からの発言には重みが</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>り、日本で一番元気な県となれば、マスコミに取り上げられ、全国にお茶の良さを伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度から牧之原市では小学生を対象に利茶大会を実施している。</li> <li>・ 食育を織りまぜたPR活動、子ども闘茶会を県内すべての小学校を対象に行い、近い将来、県大会、そして全国大会へと発展していってほしい。子どもたちにもっとお茶を身近に感じてほしい、農業後継者の育成にも役立てていきたい。</li> <li>・ このような大変な時期でも、我々茶農家は常に前向きな姿勢を崩さず、ピンチは最大のチャンスだと思い、競争社会に打ち勝つ努力と創造力を持ち日々頑張っていくので、県には農家の安定的な経営を可能にするために、消費拡大に力を入れて欲しい。</li> </ul>	<p>ある、実現するように頑張りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つくっているものがすばらしく、使わないといけない。その使い方に知恵が要る。味覚を知ることが食育になるとは、そのとおりである。</li> <li>・ 日本のお菓子づくり職人や、料理人が、世界でトップになっている。ソースをつくる、材料を切り刻んでどのように見せるか等は、技術であるが、最後は自分の持つ味覚が必要である。その味覚は子供のときからいいものを食べることで鍛えられる。</li> <li>・ 食べ方も教えることが大事で、例えばお茶もラップ飲みではなく、志戸呂焼で、飲むようにする。水道をひねったらお茶が出るというのは、ちょっとおかしい。</li> <li>・ 今の時代に合った 21 世紀型の茶の飲み方を発信していくには、いろいろな人の協力がある。協力できるようコーディネートしたい。</li> </ul>
<p>8 食の都の施設等観光施設の整備、砂浜の復活、ビジネスマッチングの場の開催、大学の創設、御前崎港の活用による地域の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧之原市相良で生まれ育ち、いつも陸の孤島と言われてきたが、今は陸海空の大変すばらしい交通の結節点、将来の発展が大変有望な地域と言われ、こんなにうれしいことはない。人が集まる、にぎわいのある地域にして欲しいと願うし、そうしたことが地域活性化のために必要である。</li> <li>・ 静岡がすばらしい食材の宝庫という話を聞き、牧之原市が食材の宝庫ではないかと思うようになった。牧之原市は、茶、大根、ニンジン等本当にたくさんの種類の農産物が採れる栽培に適した地域で、水産物もイセエビ、キンメダイ等高級魚の水揚げが本当にたくさんある。ぜひ地産地消のレストランをこの周辺でお願いしたい。</li> <li>・ また、シティホテル、特産品やお土産</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県は日本一の食材の王国であり、旬のものが一番得られる場所である。それを最も大事にするのは料理人であるが、料理人は東京で余っている。ミシュランで三ツ星の評価を得た東京の 9 軒中 3 軒は本県出身者の店である。すばらしい味覚の持ち主はすべにおり、技術さえ磨けば世界トップクラスの料理人として評価される。そういう人を引っ張ってくればよい。</li> <li>・ 食材の宝庫なので、食材を生かした食の都をつくりたい。</li> <li>・ この地域のポテンシャルはすばらしい。これをどういうコンセプトでとらえるか考え、きれいで、世界の人々誰が聞いてもわかるガーデン・シティという名前にした。</li> <li>・ 景色がきれい。そしていつ来ても食材は十分にある。だが、食の都がまだな</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>を売る施設、体験農園ができる施設の設置を考えて欲しい。それを県で設置し、経営は自分たちで行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガーベラ、トルコキキョウ、カスミソウ、バラ等が県下で1、2位の出荷量である。これは観光にも使える。</li> <li>・ 相良サンビーチ、静波海水浴場という富士山が見える遠浅の白砂の海岸がある。最近、マリンスポーツも盛んであり、自然と親しむレジャースポーツは大事にしていかなければいけない。もっと多くの人に来てもらい、知ってもらふ必要がある。</li> <li>・ 砂浜は国内外の子どもたちが自然に触れ合う場、感性豊かな子どもの育成の場として、大いに利用できる。しかし、砂浜は、自分の小さい頃に比べ、大変狭くなっているの、この砂浜を取り戻して欲しい。</li> <li>・ 観光にこれから力を入れていきたいので、協力して欲しい。</li> <li>・ 自分は製造業を営んでいるが、先が見えない自動車関連の商売で、4月以降の受注が極端に減っている。</li> <li>・ 2年前に、牧之原市が産業雇用支援ネットワークとして小さいながらもビジネスマッチングをしてくれたが、企業関係者への周知が不十分で、集客がうまくいかなかったと聞いている。空港を利用し県の規模で、大きなビジネスマッチングの場を開催して欲しい。</li> <li>・ そうすれば、中小零細企業が元気を取り戻すことができる。</li> <li>・ 富士山静岡空港大学を設立し、パイロット科、整備士科、客室乗務員科、そして観光科、物流科、自動車工学科、お茶や海産物の食品の工学科という工業大学ができれば、各分野の未来のエキスパートを育て、若者で活気あふれる地域になる。さらに、たくさんある空きアパートも埋まる。</li> <li>・ 陸海空の交通結節点、御前崎港をどのように活用し、地域の発展につなげていくのか聞きたい。</li> </ul>	<p>い。それをメインとし、どこにつくるか、知恵を絞る段階にきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食の都を公で設け、民間で運営するのが賢い。民営でないと赤字になりかねない。初期投資をしっかりと行い、民間に任せることが大事である。食の都をどこでどうつくればいいのか一緒に知恵を絞りましょう。</li> <li>・ お金のない人、お金のある人、それぞれのニーズに合わせ、B級グルメから高級なものまで揃えることが必要である。</li> <li>・ 見物客や、乗降客等たくさんの方が利用している地域の近辺は既に多くの方が注目しているので、そのデザインを画くことから始めるとよい。</li> <li>・ 砂浜には、本来砂をとめておく植物があり、砂に埋もれてまた伸びて、砂が流れないようにしているが、そこに車が入ってくることで、砂が海の方に持っていかれ、砂浜が狭くなっている。</li> <li>・ ビーチをどのように維持するか知恵を絞りながら、ビーチでのスポーツを考える。</li> <li>・ 企業のマッチングの場が必要なのはそのとおりで、今県も一生懸命やっているの、援助していきたい。</li> <li>・ 本県にはそれなりの大学の数がある。そのネットワークをつくりながら、各分野における大学の団体連合を、どこにつくればいいのか考えてみたい。</li> <li>・ 御前崎港は、施設を1バースから、2バースに拡張し、取扱いを増やしたい。新しく整備している道路を利用し、今まで名古屋港に運ばれていた東名浜松インターチェンジ近くにある国際コンテナ基地の荷を御前崎港に運びたい。物流を考えてそのために道路整備を行っている。</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>知事の所信表明で、浜名湖、富士山、伊豆という観光ブランドを創出し、全国にアピールしていくという記事を見たが、陸海空の立地を生かした牧之原ブランドを創出して、仲間に入れてもらえるよう頑張るので、力添えをお願いしたい。</li> </ul>	
<p>9 榛南地域の漁業の現状と今後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の榛南域沿岸の漁業の状況と、漁業の将来、海岸域のあり方、海面利用の方策について、自分たち漁業者の思いと、地域の揺るぎない発展による安心と歓喜と希望の計画の実現に向けて、地域の皆様をはじめとする県民の皆様の支援、協力を受け、漁業者漁場として充実させていきたい。</li> <li>漁業者として、小手先のアイデア、パフォーマンスに振り回されず、漁業を生業とする者の心意気と、連綿と続く漁業の本質的な使命を探求し、その役目を再認識することが重要である。</li> <li>必要以上の生産はしない体制づくり、生産されたものが大切に処理されるよう真心を込めることが重要と思い、改善に努めている。</li> <li>榛南の沿岸域には浜岡原子力発電所、御前崎港、富士山静岡空港という、県を代表する文化が発生した。これらの設置、開設には、漁業者の大英断と英知の結集があり、将来の榛南地域の発展と、県の発展充実を願い、協力した。このことは県民の皆さんの心に止めて欲しい。</li> <li>それに起因する磯焼き現象の発生で、全国一大きな8,000haの藻場を消失し、魚介類も失った。</li> <li>しかし、漁業者自らこの復活に取組み水産庁、県の協力もあって、約60ha復活した。 近年の沿岸漁業は、漁獲の減少が著しく、漁業経費の高騰、魚価低下の追い打ちにより、漁家の経営生活は逼迫し、漁業を離脱する者、若人の離職等、寂しい沿岸漁業の状況が見え隠れしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁業文化が時代に応じて変わってきている。</li> <li>文化とは特別なものではない。これはカルチャーの訳で、英語で書くWay of Life「生き方」ということである。だから榛南地域の生き方が榛南の文化。衣食住が文化である。</li> <li>外国人にとって、日本人が畳の生活をし、魚を上手に食べ、煮物を食べ、ごはんを食べる、家の中に仏壇という教会があること、この我々にとって当たり前のことが、彼らにとっては日本の文化になる。</li> <li>生活文化が魅力的であることが大切である。ライフスタイル全体がまるでガーデンに住んでいるみたいだ。山の文化、野の文化、浜辺の文化、そして陸海空の交通ネットワークがよくできている。そこに行ってみたい、こういうところに住んでみたいと思われる地域、毎日の暮らし方が魅力的であることが大切である。</li> <li>漁業の人たちはそれを支えている。食材の王国を漁業抜きに語れない。世界で一番たくさんの魚、種類、量を探り、食べているのは日本人で、日本の漁業抜きにして世界の漁業文化は語れない。自信を持って欲しい。</li> <li>地産地消し、ここで食べるのが一番おいしい。ここに食べに来るのが一番おいしいとするのが大事で、この地域を食の都にしたい。一気にできないので、どこかにその拠点を作りたい。</li> <li>グリンピア、お茶の郷、金谷中学校の跡地がある。それらを点として、何かをつくらうと考える。常に全体で捉え</li> </ul>

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者の進むべき道は厳しいものがある。しかし、自らこの解決に道を開かなければならないと思っている。</li> <li>・ もともとその地で産する海産物は、その土地の人々の生活必需品であり、住民の生存の維持に必要な食材であって、必要以上の生産は不要である。</li> <li>・ 海産物の管理体制が必要となる。これが漁業者冥利であり、雇用の創出の糸口である。食べる県民も、確たる信念を持ち、地産地消の推進に、地場の物を大事に扱い、楽しい食生活と、それぞれの生業に励むことで、共存共栄を目指したい。</li> <li>・ 今始まった榛南地域の躍進と、漁家の充実のため、人格の形成に向け、一汗かきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港との位置関係から、どうすれば楽しく回遊できるか考える。</li> <li>・ 蓬莱橋を渡ると袖庵がある。川越しにいろいろ珍しい道がある。点としてはいい。どういうふうに動くのか。中條景昭の像、そこから見る富士山もものすごくきれいである。点はいろいろあり、全体をグランドデザインして考えれば、海外にあるプロバンス地域、トスカナ地域のように、志太・榛原地域が、「ふじのくに」のガーデン・シティとして、皆に分かってもらえる地域に必ずなれる。</li> <li>・ この地域には、志は日本一高い富士山のごとく、思いは日本一深い駿河湾のごとく持ち、絆は南アルプスのごとく固く、夢は太平洋のごとく広くという場の力がある。</li> </ul>
<p>傍聴者 デザイン、草の根交流の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9人の発言者の皆さんからそれぞれ生活の糧にしている職業を元にした、いろいろな話、活躍を聞き、また県政にかかわる展望も聞かせてもらった。</li> <li>・ 静岡県の中で志太・榛原が一番のウィークポイントだと思う。</li> <li>・ 県内に情報を発信すると同時に、世界に発信をする基地として、この静岡空港を利用したいと皆思っている。</li> <li>・ 静岡文芸大に、都市景観設計科をつくり、発言者の方々の話にあったすばらしい要素を学生だけでなく、地域の住民も学べる場を設ける。ノウハウを授けながら、連携の中でデザインしていく。</li> <li>・ デザインができた後で、一次産業、二次産業にかかわる県政と密着した課題を解決していけば、スムーズな県政の中で、みんなが安定した生活ができるのではないかな。</li> <li>・ 草の根的な交流の核を幾つかたくさんつくり、人と人との交流を強めながら、県の力として、人の力を強めることが、本当にベターではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空港の魅力を高めるための委員会を立ち上げたが、普通県庁で開催する委員会を、空港の中、石雲院、空港近くの公民館、そして、お茶の郷で行った。そこでは、常に国を代表するような識者を呼び、現地を見てもらいながら現場で考えてもらっている。</li> <li>・ 前は空港全体の模型を見せてもらい、細かく説明を聞いた。現場を見ることで、全体の位置関係がわかる。</li> <li>・ 本当に関わり合わないとアイデアは出てこない。人と人が会って、心が触れて始めて形になる。</li> <li>・ 静岡文芸大は、地域のための大学なので、学びたいときに行けばよい。立派な先生も呼んでいるので、地域に開かれた大学に育ててもらいたい。</li> <li>・ 空港は空港だけのためにあるのではない。これは手段であり、一つの媒体として、この地域を本当にすばらしい世界の庭園に、庭園のごとき地域にしてもらいたい。</li> </ul>